

大和インベスター・リレーションズ 個人投資家向け説明会 質疑応答要旨
(2022年9月16日)

Q1	アジア 1 位、世界 4 位の企業にしては配当利回りが低いのはなぜか？
A1	株主還元の基本方針としては、財務規律を維持しつつ、成長投資を優先的に実施することで、一株当たり当期利益(EPS)の増大を通じて株主総利回り(配当利回り+キャピタルゲイン)を向上させることに主眼を置いています。したがって、配当利回りは約 0.8~1%ですが、持続的な利益成長に伴う株価上昇と合わせた株主総利回りでは、配当込み TOPIX を大きく上回る還元を果たしています。
Q2	PER が 32 倍なので、株価は割高ではないのか？
A2	当社の PER は東証平均や塗料業界平均に比べると少し高い水準ですが、これは当社の今後の成長に対する期待感の現れと考えています。2022 年度の売上収益は前期比 30%増の見通しであり、次年度以降も持続的に成長し、EPS が着実に増加していくことで、「当時の株価は割高ではなかった」と皆様に思われるよう、EPS の最大化に努めてまいります。そのために、既存事業の成長と M&A による成長の両輪で株主価値最大化(MSV)の実現を図っていきます。
Q3	株主価値最大化(MSV)で、果たすべき従業員への配慮として具体的な施策はどのようなものがあるのか？
A3	株主価値最大化(MSV)とは、各ステークホルダーへの責務を果たした上で、残存する価値を最大化し、かかるリスクを取って投資してくれた株主に報いることとなります。したがって、当社は従業員の満足度の「最大化」ではなく「向上」を目指しています。具体的な施策としては、キャリアアップのための研修体制の充実や、在宅勤務などの労働環境の整備、ポテンシャル発揮のための適切な人材配置、魅力的な報酬制度の構築などに取り組んでいます。
Q4	M&A を積極的に実施する中で、失敗した事例を教えてください。
A4	2017 年以降での失敗事例はありませんが、2016 年以前では、欧州自動車用事業において、欧州自動車市場の低迷や市場ニーズへの即応不足による売上収益低下の結果、減損損失を計上するなどの事例があります。2019 年以降は、当社の経営体制も大きく変化し、グローバル企業での経営経験者の就任や、グループ内で知見・ノウハウを共有する自律・分散型経営体制の確立などにより、M&A の成功事例が続いています。

Q5	環境汚染問題に関して、塗料の安全性や環境問題などへの取り組みを伺いたい。
A5	当社は ESG 課題への取り組みを重要課題と考え、「気候変動」分野では二酸化炭素削減、「資源と汚染」分野では、廃棄物・水資源使用量・環境汚染物質の管理などに重点を置いています。例えば鉛のような有害物質は、当社では数年前から鉛化合物使用廃止を実現し、グローバルで水質の管理や水使用量の削減に取り組んでいます。溶剤系塗料は、水性塗料や粉体塗料などの有機溶剤を使用しない製品への置換や環境配慮型製品としての新規商品開発を推進しています。持続可能な社会に向け環境課題に引き続き取り組みます。